令和６年度　のぐち童夢園自己評価

社会福祉法人クローバー福祉会
のぐち童夢園（幼保連携型認定こども園）

保育理念	「共に生きる」　認め合い・高め合い・育ち合う
保育目標	「たくましい心と体」を育む　・元気な心と体　・優しい心　・頑張る心

中　期　目　標	本年度の重点目標
園児：季節体験・集団遊びを通した気付きの芽を育成する。 職員：子に寄り添う姿勢を基本にし，資質向上に努め指導力を高める。 施設：感染防止に留意し，消毒・換気等を徹底する。	子どもを真ん中に，園と保護者が手をつなぎ，子どもの安全対策・食育指導を共有した子育て支援に取り組む。

自己評価（保育の計画・健康及び安全：職員の資質向上と自己評価の３領域）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	今年度の状況
保育の計画	(1)保育課程の編成	保育所保育方針に示されたねらい，内容を生活に取り入れた編成	B	自然・人との関わりや体験活動を重視し、保育・教育指導を進めた一方、計画の見直しがあった。
	(2)指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	B	計画・実践は良かったが、活動後の振り返りを次年度の活動に繋げる手立てを充実したい
		生活の連続性・子どもの姿を考慮	A	季節感を意識した園外活動を重視して，自然との関わりを大切にすることができた。
	(3)発達過程に応じた保育	未満児の個別計画	B	継続した活動を目指し、月齢に応じた個別指導計画に沿った保育の充実を大切にした。
		以上児への協同的な活動の促し	B	共に活動する事を通じて、学級づくりを楽しむ姿が見られた。交友関係の充実にも努めた
	(4)特別支援保育の対応	指導計画への位置づけ	A	個の特性を考慮した到達目標を設定した個別計画を作成することができた。
		保護者・関係機関との連携	A	多様な行動をする子どもの対処法を関係機関と連携した巡回相談等更に進めていきたい。
	(5)関係機関等との連携	関係校区小学校との連携	B	小学校との情報交換は十分できた。今後は、園での参観等も積極的に進める課題があった
		保護者・地域との連携	B	公民館からの協力要請に対しては、積極的に応じた。計画が少ないのが課題であった。
健康及び安全	(1)子どもの健康支援	健康状態等の把握と疾病等への対応	A	登園時の健康状態の確実な把握，体調不良時の対応及び看護師による衛生指導を進めた。
	(2)環境及び衛生管理 安全管理及び業務の改善	設備・用具などの衛生管理	A	定期的な点検結果をもとにした園全体の安全管理(ヒヤリハット点検)及び修繕に努めた。
		安全点検・避難訓練等の実施	A	毎月１回は実施した。緊張感をもたせた。消防署からの指導を受け，避難時の窓の開閉に留意した
	(3)食育の推進	食育計画の作成と実施	A	栄養士を中心にクッキング教室やお話し会を実施した。季節に応じた食育に努めた。
		アレルギーなどへの対応	A	おやつの成分把握に留意した。成分チェックの必要性を感じた。更なる誤食防止に心掛けたい。
職員の資質向上	(1)施設長の責務	法令順守・職員指導・研修への促し	A	関係法規等を遵守し，子どもの健全育成に繋がるよう全体及び職員のスキルアップを努めさせた。
	(2)自己研鑽	研修等への積極的な参加	A	対面式研修は少なったが，毎月の園内研修を担当を決め、意識をもたせ情報共有に努めた
	(3)目標管理	一年間の目標設定と振り返り	B	職員のアンケートを集約し，次年度の改善策に努めていくように取り組んだ。

達成状況：A　良好　　B　おおむね良好　　C　やや改善　　D　要改善

(総合評価)　B

○　『たのしかった』をキーワードに、毎日の保育活動は、子どもを真ん中に置き、園と保護者、先生と子どもが信頼関係を樹立させ、満足できる活動を目指すことができた。

○　本年度は、感染症対策や生活環境の場の衛生管理を考慮し、空気清浄機等の設置を積極的に進めた。感染症等による欠席も見られたが、回復も順調であったことは良かった。今後も、衛生管理を充実させていきたい。

○　園バスを有効活用し、園外活動を計画的に進めることができた。園に戻ってからの自然や人・物との振り返りを大切にした製作活動の充実に努めた。保護者等への啓発に、ICT を有効活用した。

○　子どもが喜んで登園し、満足し嬉々として降園できるよう安心安全な園づくり、職員は園児が誇りを持つような特色ある園運営を今後も進めていきたい。

令和７年３月３１日
社会福祉法人クローバー福祉会
のぐち童夢園（幼保連携型認定こども園）
園　長　上村　聡子